

原子力発電所に関する説明会  
(事前にいただいた質問一覧)

令和3年3月21日  
原子力規制庁

○ご質問

質問者	質問内容
1	<p>世界一厳しい規制をかけているので、安全基準に合格した原発は安全だという人がいますが、地震や津波などの自然災害に対する絶対安全はないと思います。また安全神話を作るのでしょうか？</p>
2	<p>1、福島事故の時、原発が集中していることがいかに危険かを痛感したが、原発の集中についてどう思うのか。</p> <p>2、「世界一厳しい規制基準」と、よく言われるが、なぜ、自ら出したガイドの地震動の大きさを無視した基準が「世界一」と言えるのか。</p> <p>(以下の質問については、当庁の回答範囲外です)</p> <p>また、私は原発の30キロ圏内に住んでいるが、こんなに近いところに住民がいる原発は、世界にもあるのか。40年越えの原発を動かしている国は、世界にどれだけあるのか。そこは安全に稼働しているのか。</p> <p>3、核のゴミの処理方法もないのに、原発を動かして核のごみを増やしていくことの矛盾をどう考えているのか。</p>
3	<p>新規規制基準に適合していかを審査するのであって安全を確認するものではないと言われていたが、住民の安全を確認するのは誰ですか。安全を確認できない規制庁など必要ないのでは。</p>
4	<p>地震学・強振動学は三重苦（①仮説と推測による体系②実験できない③データが少ない）があり、他の科学分野と比較すると未熟な学問と言えませんか。この土俵だけで耐震性を評価するシステムは科学的に崩壊しており、より俯瞰的総合的な評価システムが必要ではありませんか。</p>
5	<p>○基準地震動の加速度について、美浜原発（993ガル）、大飯原発（856ガル）高浜原発（700ガル）の値は平均値ですか、平均値だとするとこの値より大きな地震動が来る可能性はあるということですか。</p>
6	<p>ガイドラインの基準地震動のバラつきが、断層の不確かさを考慮したことで条件がクリアにされたと言い切れるのか？同じことではないのに、同じという根拠を具体的に示してほしい。</p>
7	<p>2月9日の説明会で、貴職より「審査における短周期の地震動レベルを1.5倍したケースは、地震モーメントを約3.4倍(1.5の3乗)することに相当するので、観測データのばらつきを網羅していることになる」とご回答を頂きました。その回答について以下の質問にお答えください。(但し、この質問は前回説明会後再質問済み。回答を頂いてない為、再々質問します)</p> <p>・ 関電の断層パラメータ表では、基本ケースの地震モーメント <math>M_0</math> と、短周期1.5倍ケースの地震モーメント <math>M_0</math> の数値はそれぞれいくらでしょうか？</p>

- ・ 貴職の2月3日の「基準地震動の策定に関する審査における不確かさの反映の具体例」資料5の14ページではフーリエスペクトル比（短周期の地震動の1.5倍 | 基本ケース）で、長周期は1になっています。このことは、地震モーメント  $M_0$  の数値は変わっていないことを表しているのではないのでしょうか
- ・ だとするとどのように短周期レベルが変わったのか教えてください。
- ・ 上への回答を踏めた上で、短周期1.5倍の考慮が、なぜ  $M_0$  の観測データをすべてカバーしているのか改めたお答えください。裁判で指摘頂いたように  $1\sigma$  を考慮すると  $M_0$  は2.41倍に大きくなります。このような効果が現状で本当に考慮されているのでしょうか？

基準地震動で想定された最大規模の地震が短期的に複数回起きた場合（熊本地震のように）配管等重要機器、設備に対するダメージが生じる可能性は大きいのではないのでしょうか？このような新たな知見を取り入れた基準を作ったほうがいいのではないのでしょうか？